⭐つながる食卓
～障がいのある子どもの外食支援～

令和７年８月６日・８月２０日・８月２７日　**のうえんかふぇ**

Rotary 世界を変える行動人

🎯 プロジェクトの目的

1．障がいのある子どもたちに外食の機会を提供する

普段外食の機会が少ない子どもたちが、安心して食事を楽しめる場を体験することで、社会参加の第一歩を踏み出す。

2．食事を通じて社会性や自信を育む

ロータリアンとの交流や食事マナーの学習を通じて、他者との関わり方や社会的スキルを身につける。

3．地域の理解と共生意識の促進

店舗関係者や地域住民が障がいへの理解を深め、誰もが共に生きる「共生社会」の実現に向けた意識を高める。

4．ロータリアンの奉仕活動の実践と継続的な支援の基盤づくり

ロータリアンが積極的に関与することで、地域に根ざした支援活動を継続的に展開する土台を築く。

プロジェクトに向けて

🏠 会場選定の理由：のうえんカフェ

のうえんカフェは、袖ケ浦ロータリークラブの会員が経営する店舗であり、障がい児支援への深い理解と協力体制が整っていることから、会場として最適と判断しました。

主な選定理由：

✅ 定休日を活用して貸切対応が可能

他のお客様がいない環境で、子どもたちが安心して過ごせる時間を確保。

✅ 障がいのある子どもたちへの理解が深い

「騒ぐ」「走る」「落ち着かない」などの特性にも寛容で、否定せず受け入れてくれる姿勢。

✅ 店舗スタッフの協力的な対応

事前打ち合わせで、食事の形態や動線、安全面など細やかな配慮を快く引き受けてくれた。

✅ 他の店舗では難しい柔軟な環境づくり

一般営業中の店舗では対応が難しい場面でも、のうえんカフェなら実現可能だった。

✅ ロータリアンによる経営で信頼関係が築かれている

奉仕の精神に基づいた協力が得られ、活動の趣旨を深く理解してもらえる。

近隣の放課後等デイサービスへ一軒一軒、心を込めて

- 本プロジェクトの実施にあたり、袖ケ浦市内に限らず、近隣地域の放課後等デイサービス事業所を訪問しました。
- 障がいのある子どもたちが安心して外食を楽しめる場をつくるという趣旨を、直接職員の方々に説明し、参加への理解と協力をお願いしました。
- 顔を合わせて話すことで、施設ごとの配慮点や子どもたちの特性についても共有でき、信頼関係を築くことができました。
- ポイント：

✅ 地域を越えて広がる支援の輪

✅ 施設職員との丁寧な対話

✅ 安心して送り出せる体制づくり

参加希望の受付と事務局による調整対応

イベントの案内配布後、参加希望の放課後等デイサービス事業所からの申し込みを、ロータリー事務局が一括して受け付けました。

子どもたちの人数や特性、アレルギー情報、希望日程などを丁寧に確認し、店舗との調整を行いました。

事務局は、各回の定員管理や施設職員との連絡、緊急時対応の確認なども担い、安心して参加できる体制づくりを支えました。

事務局の主な対応内容：

- ✅ 参加申し込みの受付・整理
- ✅ アレルギー・配慮事項の情報収集と店舗共有
- ✅ 日程調整と定員管理（児童・職員・ロータリアン）
- ✅ 施設職員との連絡・確認事項の対応

「はやく食べたい！
――期待がふくらむ時間」

“まだかな、まだかな！”―料理の香りと笑顔の予感に、子どもたちの胸は高鳴っていました。

待ちきれない気持ちが、表情にも足取りにもあふれていて、会場はすでに笑顔で満ちていました。

「笑顔で一歩――ビュッフェの時間」

“ これにしよう！ ” と笑顔で指さす姿に、食べる楽しさと、自分で選ぶ喜びがあふれていました。

ビュッフェスタイルの食事は、子どもたちの“ やってみたい ” をそっと後押ししてくれます。

「食べるって、こんなに楽しい——心がふれあう食卓

「自分で選んで取りに行く子もいれば、職員と一緒にゆっくり選ぶ子もいる。それぞれのペースで、食事の時間を楽しんでいます。」
「“ これにする！ ” と笑顔で指さす子、“ ちょっと緊張… ” と職員にそっと頼る子—どちらも、立派な選択のかたち。」
「ビュッフェスタイルは、子どもたちの “ 自分で選ぶ ” という体験を支える場。その一歩を、ロータリアンと職員がそっと見守ります。」
「誰かと一緒に選ぶことも、ひとりで選ぶことも、どちらも大切な “ 自分らしさ ”。この食卓には、そのすべてが受け入れられています。」

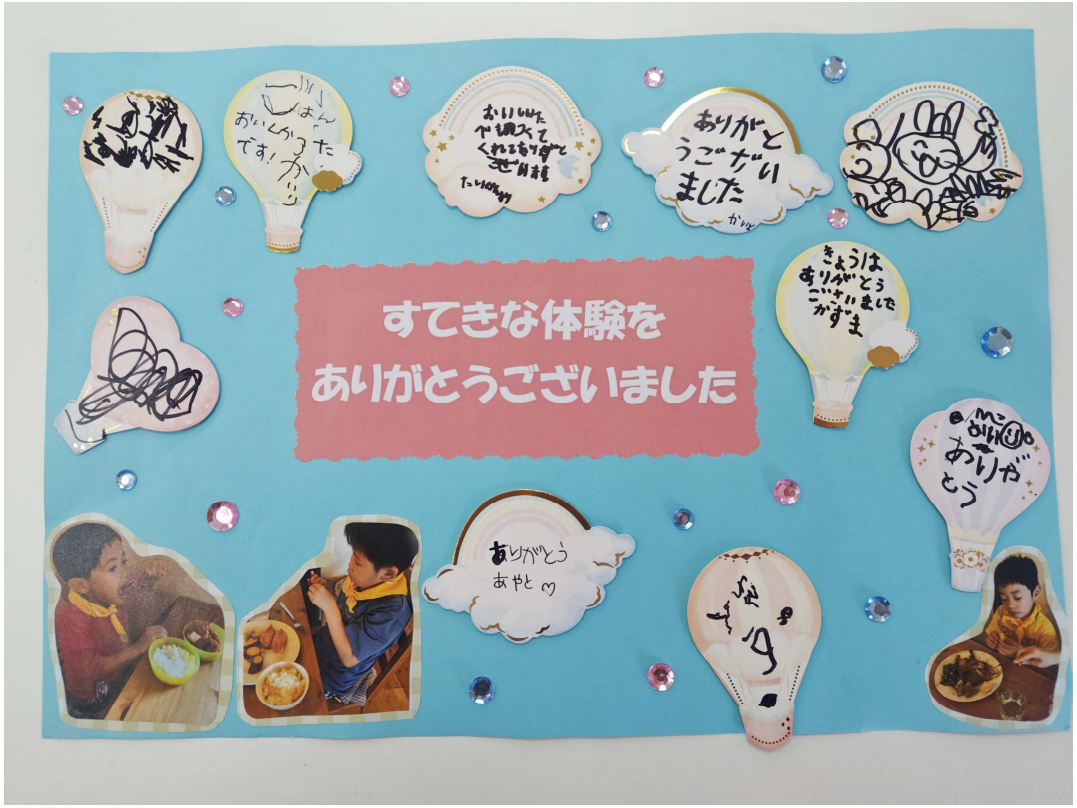
こんなに食べるなんて笑顔と食欲が広がる時間

「普段は食が細く、偏食も多い子どたちが、今日はいつもよりたくさん食べていました。料理のおいしさだけじゃな、雰囲気や空気感が、きっと子どもたちの心をほどいてくれたんでしょうね。」「“こんなに食べるなんて珍しいですね”」と、放課後デイのスタッフの方が驚いた様子で話してくれました。おいしさと安心感が、子どもたちの食欲をそっと引き出してくれたようです。

偏食がある子も、今日は自分で選んで、しっかり食べていました。『料理の味もあるけど、雰囲気なんですかね』—スタッフのその言葉に、場の力を感じました。

食べる量だけじゃなく、“食べる意欲”が違っていた。それは、料理の力だけではなく、誰かと一緒に食べるという安心と喜びがあったから。

✨ 書ける言葉も、書けない気持ちも
——全部、届いています



放課後等デイのスタッフと子どもたちが、イベントのあとに手紙を届けてくれました。

字が書けない子も、何かしらの形で“ありがとう”を伝えてくれていて—それが、何よりうれしかったのです。

こんな機会、初めてです”　届いた感謝の声

外食の機会がほとんどない子どもたちに、

ましてやビュッフェなんて夢のような体験でした。
“こんな機会をつくってくれて、本当にありがたいです”

—放課後等デイサービスのスタッフの方から、そんな言葉をいただきました。

成果と今後の展望

今回の取り組みは、単なる“食事の場”を超えて、障がいのある子どもたちが社会と関わるきっかけとなりました。

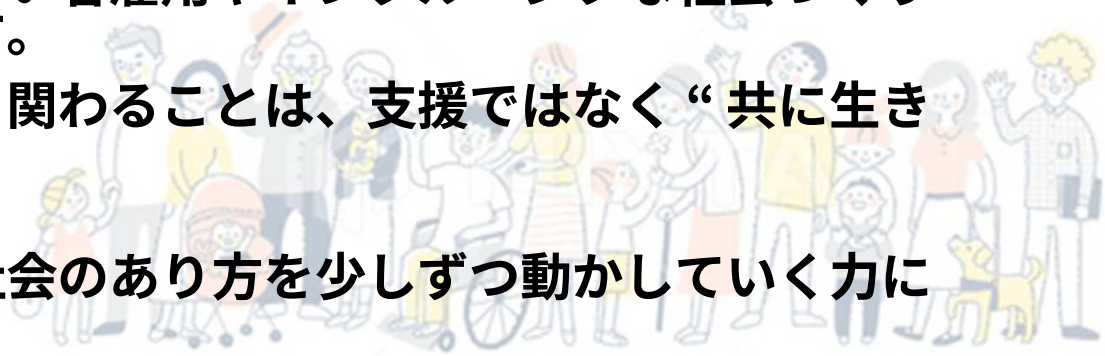
外食という体験を通じて、子どもたちは「自分で選ぶ」「誰かと食べる」「安心して過ごす」ことの喜びを感じ、地域の大人たちと自然な交流を重ねました。

ロータリアンが直接関わることで、障がい児支援の現場に対する理解が深まり、地域とのつながりも確かなものとなりました。

このような関わりが、将来的に障がい者雇用やインクルーシブな社会づくりにつながっていく可能性もあります。

私たちが障がいのある子どもたちと関わることは、支援ではなく“共に生きる”という姿勢の表れです。

その一歩が、地域の意識を変え、社会のあり方を少しずつ動かしていく力になると信じています。



この場をともに育ててくれた皆さまへ——感謝を込めて

今回の取り組みは、たくさんの方々の協力によって実現しました。
のうえんカフェの全面的なご協力により、子どもたちが安心して過ごせる場が整いました。

袖ケ浦ロータリークラブのメンバーの皆さまには、準備から当日まで、心を込めた支援をいただきました。

そして、国際ロータリー第2790地区からは、活動の意義をご理解いただき、予算面でも力強い後押しをいただきました。

一人ひとりの思いやりと行動が重なり合い、子どもたちの笑顔と、地域のつながりが生まれました。

心より、感謝申し上げます。

Rotary 世界を変える行動人